諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 先進国の経済成長と南北問題，アメリカ合衆国の覇権の動揺，資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換，アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題，経済のグローバル化などを基に，格差是正の取組と課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 国際競争の展開と経済格差に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，先進国による経済援助や経済の成長が見られた地域の特徴，諸地域間の経済格差や各国内の経済格差の特徴，経済格差と政治や社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現する。

(3) 科学技術の高度化と知識基盤社会

諸資料を活用し，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 原子力の利用や宇宙探査などの科学技術，医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理，人工知能と労働の在り方の変容，情報通信技術の発達と知識の普及などを基に，知識基盤社会の展開と課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連などに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，現代の科学技術や文化の歴史的な特色，第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し，表現すること。

(4) 地球世界の課題の探究

次の①から③までについて，内容のＡ，Ｂ，Ｃ及びＤ並びにＥの(1)から(3)までの学習を基に，持続可能な社会の実現を視野に入れ，主題を設定し，諸資料を活用し探究する活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①　紛争解決や共生

②　経済格差の是正や経済発展



③　科学技術の発展や文化の変容

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ) 歴史的経緯を踏まえて，地球世界の課題を理解すること。

イ　次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ｱ) 地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

3　内容の取扱い

(1) 内容の全体にわたって，次の事項に配慮するものとする。

ア　この科目では，中学校までの学習や「歴史総合」の学習との連続性に留意して諸事象を取り上げることにより，生徒が興味・関心をもって世界の歴史を学習できるよう指導を工夫すること。その際，世界の歴史の大きな枠組みと展開を構造的に理解し，考察，表現できるようにすることに指導の重点を置き，個別の事象のみの理解にとどまることのないように留意すること。

イ　歴史に関わる諸事象については，地理的条件と関連付けて扱うとともに，特定の時間やその推移及び特定の空間やその広がりの中で生起することを踏まえ，時間的・空間的な比較や関連付けなどにより捉えられるよう指導を工夫すること。

ウ　年表や地図，その他の資料を積極的に活用し，文化遺産，博物館やその他の資料館などの施設を調査・見学するなど，具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際，歴史に関わる諸資料を整理・保存することの意味や意義に気付くようにすること。また，科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などとの円滑な連携・協働を図り，社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

エ　活用する資料の選択に際しては，生徒の興味・関心，学校や地域の実態などに十分配慮して行うこと。

オ　近現代史の指導に当たっては，客観的かつ公正な資料に基づいて，事実の正確な理解に導くとともに，多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成すること。その際，核兵器などの脅威に着目させ，戦争や紛争などを防止し，平和で民主的な国際社会を実現することが重要な課題であることを認識するよう指導を工夫すること。

カ　近現代史の指導に当たっては，「歴史総合」の学習の成果を踏まえ，